

1 株式会社夕張ツムラ（北海道夕張市）

産地の概要



品目

センキュウ、トウキ（ヤマトトウキ）、オウギ 他5品目

栽培面積

235ha（8品目合計）

栽培戸数

20戸（8品目合計）（令和6年11月時点）

取組体制

（株）夕張ツムラ（以下、夕張ツムラ）（種苗生産、調製・加工・出荷、栽培技術指導）
生産団体（委託契約による生産）
JA（調製・加工・出荷、栽培技術指導）
【協力機関】 農業改良普及センター、農薬メーカー

特徴

委託契約による生産の他に、植付と収穫は夕張ツムラが行い、栽培管理を生産者に委託するパートナーシップ契約による生産も拡大中

取組の背景



漢方薬の原料となる生薬の栽培及び製品の保管に適した冷涼な気候であり、広大な土地を活かした大規模栽培が可能であることから、北海道に参入することになった。冷涼な地での栽培に適したセンキュウの増産をはじめ、地の利を生かした生薬の試験栽培や品質向上のための栽培マニュアルを作成。JAの協力も得ながら、農機具の貸し出しや積極的な農薬登録も進め、生産者が栽培に注力できるような生産体制を構築している。

▲センキュウの栽培風景

品目選定理由

- 当初の計画ではトウキ、シャクヤク、オタネニンジンを生産する予定だったが、北海道の輪作体系になじまない品目があったため、複数品目の試験栽培を経て気候にも適した8品目を選定。
- センキュウは収穫機械化が進んでおり、元々北海道で栽培された生薬を使用していた経緯から選定。

課題

- 温暖化等の影響で、一部生薬において収量の低下や今まで発生していなかった病害虫の被害が見られるようになってきている
- 労働力不足や離農によって1戸当たりの栽培面積が増加したが、生産者の負担が大きい
- 製品の最終選別では、熟練者の目視による選別を行っているため、持続性を考えると機械化が必要

主な取組内容

①種苗

- 夕張ツムラが調達し生産団体に貸与。また、自社農場にてトウキの種子生産もしており、生産団体における負担を軽減

②栽培管理

- （株）ツムラ（以下、ツムラ）独自の生薬生産の管理に関する基準（ツムラ生薬GACP）を制定し、生薬生産標準書（栽培マニュアル）による栽培工程の管理（平成22年）
- JAと協力し、登録農薬の適用拡大を積極的に推進（令和6年11月時点で30種類）
- 植付と収穫は夕張ツムラが行い、栽培管理は生産者に委託するパートナーシップ契約を活用し、栽培面積を拡大

③加工・調製

- 加工施設、保管倉庫の整備（平成22年）、保管施設・倉庫を増設（平成27年）
- 夕張ツムラが収穫後の調製作業まで担っているが、品目によっては、JAも加工・調製を行っており生産団体との分業体制を確立

④集出荷

- 乾燥調製後、医薬品の原料である「原料生薬」としてツムラに出荷



▲生薬部位：センキュウ



▲トウキの加工作業分業化（乾燥）

成果

【取組による定量的な成果】（8品目合計）
薬用作物収穫量増加 H21：293 t → R5：675 t

年度	2009	2020	2021	2022	2023
面積(ha)	98	208	218	218	235
数量(t)	293	542	542	615	675※

※未選別重量データを一部含むため見込み数量

今後の展開

- 漢方薬需要を見越し、令和7年には生薬の保管容量を2,000 t から4,500 t に増強する計画
- 面積拡大により、夕張ツムラでの生薬の生産量を1,000 t 以上を目指すことを目指している